日中合作经营保加利亚木炭项目建议报告书

1. 项目概况
2. 项目的必要性

日本市场自90年代从中国大量进口白炭，到2015年日本进口数据显示日本白炭需求量约为2万吨每年。中国政府禁止用原木木材烧炭后。该项目就转到缅甸、老挝，越南，印度尼西亚等地。但这几个东南亚国家有的炭品质不稳定，资源不多，有的政策不稳定，有的也禁止或限制做木炭了，所以不是理想的长久供应国。亟待寻找一个资源、政策、品质价格稳定的新的供应国。

2,从2011年开始，浙江民心生态科技股份有限公司开始到罗马尼亚调查，并在2012年在罗马尼亚建造了4个窑试烧，我们找到了一种木材非常适合制作白炭，样品寄送日本后得到客人肯定。由于罗马尼亚这种木材都是大木材，最后我们在2013年找到保加利亚有很多这种小木材（制作白炭一般用小木材，大木材要破开烧割炭，增加成本且在日本市场不太好销售），所以我们决定把工厂设在保加利亚。并买下土地和厂房建造了80个窑左右，且木炭也销售了5个柜到日本和韩国，质量得到客人肯定。最终由于股东经营理念不合且经营不善，主要是炭窑建设的不行，导致基本都要重新建设。股东失去信心，不愿意继续注资，所以项目持续不下去。现在股东们有意按照　　　万人民币的价格转让给其他经营或者合作经营该项目。

保加利亚木材资源丰富，政府政策稳定。之前我们投入了将近750万元人民币，且做了1年多时间，对那边情况基本了解清楚。另外追加投资金额不是很大，风险小，具有很大的投资价值。

1. 项目的可行性分析
2. 项目位置

保加利亚是欧洲东南部[巴尔干半岛](http://baike.baidu.com/view/26609.htm" \t "_blank)东南部的一个国家，与[罗马尼亚](http://baike.baidu.com/view/20414.htm" \t "_blank)、[塞尔维亚](http://baike.baidu.com/view/298263.htm" \t "_blank)、[马其顿](http://baike.baidu.com/view/21706.htm" \t "_blank)、[希腊](http://baike.baidu.com/view/6744.htm" \t "_blank)和[土耳其](http://baike.baidu.com/view/6785.htm" \t "_blank)接壤，东部滨临[黑海](http://baike.baidu.com/view/36763.htm" \t "_blank)。保加利亚国土面积为110910[平方公里](http://baike.baidu.com/view/230208.htm" \t "_blank)。2013年[人口总量](http://baike.baidu.com/view/4847311.htm" \t "_blank)为7588570人。保加利亚2004年3月29日加入[北约](http://baike.baidu.com/view/13727.htm" \t "_blank)，2007年1月1日加入[欧盟](http://baike.baidu.com/subview/19788/19845503.htm" \t "_blank)。保加利亚属[温带大陆性气候](http://baike.baidu.com/view/198788.htm" \t "_blank)，东部受黑海的影响，南部受[地中海](http://baike.baidu.com/view/15817.htm" \t "_blank)的影响而有[地中海式气候](http://baike.baidu.com/view/268921.htm" \t "_blank)。气温在一月的-2℃和2℃之间（山地到-10℃）和七月的19℃至25℃（山地约10℃）之间。年平均降雨量在450至600毫米间（山地达1300毫米）。北部属大陆性气候，南部属地中海式气候，冬季较暖。平均气温1月：-2℃～2℃，7月：23℃～25℃。年平均降水量平原450毫米，山区1300毫米

工厂在大特尔诺沃省兹拉塔里察市，在保加利亚的中部巴尔干山区，木材资源丰富。工厂距离首都索菲亚大约250公里，距离瓦尔纳港口大约也是250公里。当地人主要信仰东正教，当地语言是保加利亚语，国民普遍会讲英语。人均GDP大约7700美金。

1. 项目现状

工厂买了三栋厂房，每个大约2000平方米，合计6000平方米。另外土地还有4000平方米。仓库和办公室是租赁，就在工厂边上。已经做了1年多，产品也出口国日本和韩国。最初建设的80个炭窑基本坏掉了，后面新建的8个炭窑试烧过一窑，新炭窑没有问题。公司一共有5个中国股东和一个保加利亚股东（保加利亚注册公司需要当地人，他只是挂名）。

1. 项目的生产能力及风险分析

工厂现有厂房可以做100个炭窑左右，每月可以出100吨成品炭。主要风险是当时候环保设备和批文没有做过，我们已经找到当地环保公司谈过，他们可以帮我们做这些东西。需要环保投入10万欧元，约75万人民币。

1. 项目的赢利能力和风险分析。（详见每吨炭成本见保加利亚炭成本核算表）

保加利亚白炭在日本市场2015年价格是1750美金每吨，目前同质量炭其它国家最便宜价格是1600美金每吨。保加利亚炭送到日本成本大约1200美金每吨。按照目前最低价格算，每吨有400美金利润。按照每月生产100吨，每年生产10个月计算，合计每年毛利润是400\*100\*10=400000美金。目前白炭主要销售到日本和韩国，价格等风险相对较小。

1. 项目今后的中长期规划

保加利亚木材资源非常丰富，考虑到成本和销售方面，推测再设立同等规模3-5个分厂没有问题。每个分厂大约需要500万元人民币，每个分厂每年可以产生400000\*6.6（美元汇率）=264万元人民币。考虑到建设工厂时间，一般2.5年可以左右可以收回投资回报。

1. 日中合作经营模式
2. 中日出资比例，金额，方式要启动该项目大约还需要400万元人民币投资。

待定

1. 公司构成，管理模式。待定

日中合作経営ブルガリア炭事業提案報告書

一、プロジェクトの概況

1、プロジェクトの必要性

日本市場は90年代から中国から大量白炭を輸入し、2015年までに日本の輸入のデータによると日本の白い炭需要が年間約2万トンだそうで、中国政府の原木で木炭製造を禁止されています。木炭製造事業が中国からャンマー、ラオス、ベトナム、インドネシアなどに移しますが、しかし上記の東南アジア国家に作った木炭品质の不安定、資源は多くないがる政策不安、禁止や制限もやったので、炭の理想の長い供給地になりにくいです。早急に白炭の木材の資源が豊富し、政策や炭品質価格が安定できる新しい白炭の供給国を探すのが急いでいるのです。

2、2011年から、浙江民心生態科学技術公司がルーマニアを調査し、2012年、ルーマニアで建造した4つの窯で試験的に炭焼き、そのなかには一種の木材が日本備長炭を製造できる木材が見つかりました、サンプル取り寄せ、日本のお客様にも確認してもらいましたが。ルーマニアにあるこの品種の材木はサイズが大きなので、最后に我々は13年にブルガリアで多くこの小さな木材(制作白炭には一般的に直径小さな木材を使用し、、大木材で焼けば、割炭になり、コストも増加し、日本市場があまりよく受けないのです。

ですから私たちが木炭工場をブルガリアに設置することに決まりました。土地を買って工場をけんせつしまして噛まを８０基ぐらい建造しました、炭も５コンテナー分ぐらい日本と韓国に輸出して、韓国と日本のお客さんがブルガリア白炭の品質を認めました。結局、株主の間に経営理念の不統一で、窯の建設工事がうまくいっていなかったし、経営陣の管理も下手なので株主が継続の経営に自信を失って、引き続き投資の意欲がなくなって、早くこの事業を撤退したいのです。今の株主たちが人民元　　　万の価格でこの事業と工場を他社に譲渡したいです（詳しい価格が未定で相談必要です）。

ブルガリアに木材资源が豊富で、政府政策の安定しているし。今までに投入した750万元もあって、1年余り時間でいろいろの経験もあるし、現地状況も把握ました。実際には少ない追加投資金額でリスクをかからないように成功できるはずです,とても投資の価値がある事業だと思います。

二、事業の内容の分析

1、プロジェクトの位置

ブルガリアは欧州南東部のバルカン南東部の一国と、ルーマニア、セルビア、マケドニア、ギリシャやトルコの国境、東部には黒海を面している。ブルガリア国土面積110910平方km。2013年人口総量が7588570人。ブルガリア2004年3月29日に北大西洋条約機構(nato)、07年1月1日に欧州連合(eu)に加入した。ブルガリアは温帯性気候、東部大陆性人気黒海の影響で、南部の影響を受け、地中海が地中海式気候。気温は1月の−2℃と2℃間(山地から- 10℃)と、七月の19℃から25℃(山地の約10℃)間。年平均の降水量は、450 ~ 600ミリ間(山地1300ミリ)。北部は大陆性気候、南部は地中海式気候で、冬が温暖だ。平均気温が1月:- 2℃~ 2℃、7月23 ~ 25℃℃。年平均降水量の平原450ミリ、山間地域1300 mm

工場は、大特爾诺沃省滋トラカトリーナ察市、ブルガリア中部バルカンの山間地域、木材は资源が豊富。工場の首都ハギア・ソフィアから距离がおよそ250キロ、ナホトカ港の距离も约250キロ。地元の主要な信仰が東正教で、現地の言語がブルガリア语ですが、一般のある程度教育を受ける国民は英語も話せます。1人当たりのGDPの約7700ドル。

2、、プロジェクトの现状

株主立ちがこの事業のために現地で工場を3つ買いました（１つ面積が约2000平方メートル）、合計6000平方メートル,その以外にまた土地も4000平方メートルを持っています。仓库や事務室は賃貸したもので、場所がすぐ工場の隣です。実際にはもう1年以上製造経験がありまして、日本と韓国に製品も輸出しました。最初に建設した80個の窯が殆んど壊れて使用できない状態にあり、新築の8つのかまで焼けた結果として、新しいかまの問題はないです。この事業のためにブルガリアで登録した会社の出資者は計5つの中国株主とブルガリア株主(ブルガリア登録会社の場合では１人地元の人が必要なので、彼はただ名義上の株主です)。

3、プロジェクトの生産能力及びリスク分析

今の工場の場所で100個窯が作れます、通常毎月100トン炭が製造できるのです。主要リスクは排煙の問題で環境保護にあう設備を同时に投入しないといけないことです、我々はもう現地環境保全関連会社と相談しまして、彼らの見積もりでは追加投入が10万ユーロ、約75万元があれば環境問題を解決できるのです（排煙処理問題）

4、プロジェクトの営利能力とリスク分析。

(1トン当たり炭コスト明細表が以下のようです)

ブルガリア白炭日本市場で2015年の価格は、現在1トン1750ドルと炭质に他の国の一番安い価格は1トン当たり1600ドル。ブルガリア炭日本着は约1200ドルトン当たりです。例えば現在最低価格で売っても、1トン当たり400ドルの利益を取れるのです￥。毎月100トンを生産によって、毎年10ヵ月計算し、合計は毎年粗利益が400 \* 100 \* 10

= 40万ドル。今まで白炭を主に日本と韓国へ販売し、価格と品質のリスクが割に少ないです。

5、プロジェクトの今後の中長期計画

ブルガリア木材資源が豊富なことを考慮し、コストや販売において、同等規模の工場を3−5つ設置するのが問題ない。100窯の１つ新工場を造るのは約500万元人民元がかかります。、１つ新工場でできる粗利益が40万ドルで今での為替6.6では約264万元人民元利益あります。工場建設時間を考慮すれば、一つ工場に投資する場合では建設期間もいれても2.5年ぐらいで投資金の回収できるはずです。

三、、日中合作経営方式

1、中日出資比率、金額。この事業を再稼動するため必要な資金が約400万人民元投資だ。

出資比率が未定、相談次第です。

2、会社の構成方式、管理方法が未定で相談次第。